



湊線&応援団 2025年 10大ニュース

利用客増加続く湊線、市内外からの応援も

沿線人口の減少や少子化による通学定期利用者の減少が続くなっていますが、湊線の輸送人員はわずかながら増加傾向が年々続いている。利用客の減少に悩む地方ローカル鉄道の中にあって湊線は奮闘しています。これを支えるのは市内外からの熱い応援。湊線の魅力を伝えたいと、旅行会社のツアー販売や八朔まつりとのタイアップ、地元自治会の利用などが拡大しました。一方、延伸事業は昨年11月の工事認可に続き、年末には鉄道事業再構築実施計画が認定されました。将来にわたり持続可能な公共交通をめざして歩み続ける湊線です。

① 延伸事業に弾み、鉄道事業再構築実施計画を認定

ひたちなか市と海浜鉄道は、将来にわたり持続可能な公共交通として維持していくために「湊線鉄道事業再構築実施計画」を策定し、ことし10月末に国へ認定申請をしていましたが、12月22日、関東運輸局長名で認定書が交付されました。この実施計画によると、市は県とともに鉄道施設等の設備更新や維持修繕費の全額を負担する事業構造(みなし上下分離方式)に変更し、延伸により国外・地域外からの来訪者の利便性や周遊性の向上などを図るほか、主要駅へのキャッシュレス券売機の導入や沿線地域関係者などと連携し利用促進活動を図っていくとしています。海浜鉄道は鉄道の運行に経営資源を集中することで、経営効率化やサービス向上が図られるとしています。また一步、延伸事業へ弾みとなりました。

② まさかの「鉄旅グランプリ」を受賞

4月16日、さいたま市の鉄道博物館で開催された「第14回 鉄旅オブ・ザ・イヤー」のコンテストで、読売旅行が海浜鉄道を舞台に昨年10月に2回実施した「ひたちなか海浜鉄道キハ205 最初で最後の夜行列車」のツアーが、見事グランプリに輝きました。このツアーを企画した同旅行の武藤友輝さんとともに、海浜鉄道吉田社長と応援団代表2名が最終審査のプレゼンに参加、全国から応募のあった85ツアー(商品)の中からまさか!! の受賞でした。

③ 2024年度輸送人員記録更新、118万2千人

5月末に発表された海浜鉄道の2024年度決算は、輸送人員が開業以来最高の118万2,442人(前年比1.2%増)、旅客運輸収入も1億9,354万円(同3.7%増)と回復基調で順調に推移しましたが、営業費用が人件費や燃料費、シャトルバスの運行費などの増加により、単年度収支はマイナス658万円と、5期連続の赤字になりました。輸送人員は定期旅客が前年比1.7%減でしたが、定期外旅客が同6.8%増となり赤字幅は縮小。黒字化に向けて助走をつける年になりました。

④ 自然豊かな沿線に白鳥飛来急増!

新年になってから、中根一高田の鉄橋間の沿線の刈田に白鳥の姿がたくさん見られるようになりました。以前から確認されていましたが、その数、多い時は100羽以上と急増しました。真っ白な親鳥に混じって羽が灰色がかった幼鳥も見られます。くちばしの特徴からオオハクチョウのようです。いつも朝7時過ぎに西の方から飛来し日中を過ごしています。今冬も11月半ばから飛来が続き、自然豊かな沿線の名所となりそうな予感です。

⑤ おさかな列車ツアー、車内で海の幸を堪能

この秋、日本旅行では5回にわたり那珂湊漁協女性部の全面協力で地元で獲れた食材を車内で堪能する「おさかな列車」ツアーを実施し好評でした。ツアーでは那珂湊駅ホームで金目鯛やたこ飯など満載のお弁当に加えて、熱々の海鮮ババエキューが参加者に手渡され、車内で応援団の沿線ガイドを聞きながら海浜公園へ。地元スイーツのお土産も付きました。そして最終ツアーはあんこうスペシャル。おさかなの街、那珂湊をPRしました。



実施計画の認定書が藤田礼子関東運輸局長より市と海浜鉄道に交付されました(12/22・横浜にて・市企画調整課提供)



湊線を眺める?白鳥たち(中根一高田の鉄橋間)



おさかな列車は豪華版(12/14)



キハ100-39が営業運転開始(11/25)



熱氣が続いた開業記念(6/22)

元日運行 初詣・初日の出列車 勝田発 5:29 急行「あじがうら」 勝田発 6:02 快速「なかみなど」

あじがうら号では先着300名様に開運福袋進呈!

沿線神社・ホテルニュー白亜紀ではHotなサービス
初日の出は6時49分、日の出時刻に合わせて祝太鼓と笛の演奏

湊線1日フリー切符(おとな1000円・子ども500円)がお得。当日購入OK。
「応援券付き硬券フリー切符」による事前購入もできます。

※通常の乗車券・定期券でもご乗車いただけます。

感染症予防のためマスク着用にご協力ください。また発熱症状のある方は参加をお控えください。
★あじがうら号は3両運行ですが、定員を大幅に超えた場合は次のおかみなど号へご乗車をお願いする場合がございます。

湊線沿線の「いま」がわかる! 応援団facebookページ「いいね!」17,800名を達成しました!

海浜鉄道



応
援
団



応援団HP

第225号

勝田 阿字ヶ浦

⑥ みなと産業祭のツアーに約400人

10月19日のみなと産業祭に合わせて、読売旅行では5年ぶりに県内各地からバスで約400人のお客様を集客してくれました。ツアーは延伸の早期実現を祈念した「まるごとひたちなか」。産業祭と海浜公園、ほしいも神社など。そして那珂湊駅ホームで湊線の説明と乗車と、とても中身の濃いツアーになりました。

⑦ 営業運転開始 キハ100-39、来春には3両体制

昨年12月までにJR東日本から購入したキハ100形気動車3両のうち100-39が11月25日、那珂湊一勝田間の夕方の区間運転で営業運転に初登場しました。保安装置の整備などで運行開始が遅っていました。那珂湊一阿字ヶ浦間は、一部線路設備の補強が整う来春を目途に運行開始となるそうです。一方、100-40は2代目・ほしいも列車として整備済み。開業記念祭などでも公開されました。観光列車としても今後の活躍が期待されています。

⑧ 沿線の春は「桜リレー」から

ことしも沿線では中根駅で早咲きの大漁桜の開花に続いて、枝垂れ桜、ソメイヨシノ、八重大島など花のリレーが続きました。応援団では3月26・27日に中根駅で大漁桜のライトアップを実施しました。こしひはライトを少しバージョンアップ。少し明るくなつたライトに桜が映えました。

⑨ 八朔まつりお浜入りで早朝臨時列車を初運行

釧路町年番で実施されたことしの八朔まつりでは、実行委員会からの要望で、8月24日早朝の御神輿お浜入りの時間帯に合わせて、勝田4時55分発一那珂湊5時10分着の早朝臨時列車の運行をしました。初回の利用は40人ほどでしたが、初のお浜入り体感列車となりました。また、実行委員会メンバーは祭りの2日間、那珂湊駅前で行楽客らに祭りのガイドブックの配布や案内をしました。

⑩ 開業記念祭1400人、応援団写真展にも696人来場

真夏の陽気になった6月22日の海浜鉄道開業記念祭には親子連れの家族を中心に約1400人が訪れ、3両編成の列車は終日満員の運行になりました。また、デビュー前のキハ100-39の車内を利用した応援団写真展には696人の来場があり、出展した写真家16人の作品に熱い視線が注がれました。ご来場ありがとうございました。

⑪ 抜本的な渋滞対策が急務です!

各地でオーバーツーリズム対策が急がれていますが、那珂湊駅前へおさかな市場へ大洗アクアワールド周辺の渋滞対策も急務です。とくにネモフィラ、お盆、コキア、年末の時季は那珂湊駅から市場まで3時間の渋滞も珍しくありません。茨城交通の定期バスは渋滞が予想される日中のアクアワールド方面への運行を休止しました。行政境界を越えた対策、湊線を利用した観光客の輸送方法の検討など抜本策が急がれます。

受験生が参加、縁起のいい絵馬奉納式

那珂湊駅や勝田駅に設置された「縁起のいい絵馬」の奉納式が、12月21日に阿字ヶ浦の堀出神社ありました。奉納式には市内5つの中学校から20名の受験生や保護者・先生らが参加し、合格を祈願しました。

新鮮野菜の朝市 1月はお休みします

那珂湊駅ホームで毎月第1曜日に実施している朝市は1月はお休み致します。次回は2月1日(日)に実施します。

ローカル鉄道・地域づくり大学「市民編」 2025ウインターランド開催

一般社団法人ローカル鉄道・地域づくり大学(代表理事・中川大京都大学名誉教授)では、新年1月10日(土)・11日(日)の2日間、ひたちなか市文化会館大会議室でウインターランドを開催します。

テーマは「鉄道は地域の宝 みんなで支えて地域を元気に」で、参加費は無料(交通費・宿泊費は自己負担)、申込みは誰でもできます。

スクール1日目は森雅志 前富山市長と吉田社長の講義、2日目は中川教授と宇都宮淨人関西大学教授の講義があり、終了後は希望者による湊線の貸切乗車があります。スクールの詳細・申込みはQRコードからご覧ください。